

中央環境審議会水環境部会  
総量削減専門委員会(第3回)ヒアリング資料

# 愛知県における 海域環境改善の取組

平成27年1月20日(火)

愛知県環境部水地盤環境課

1

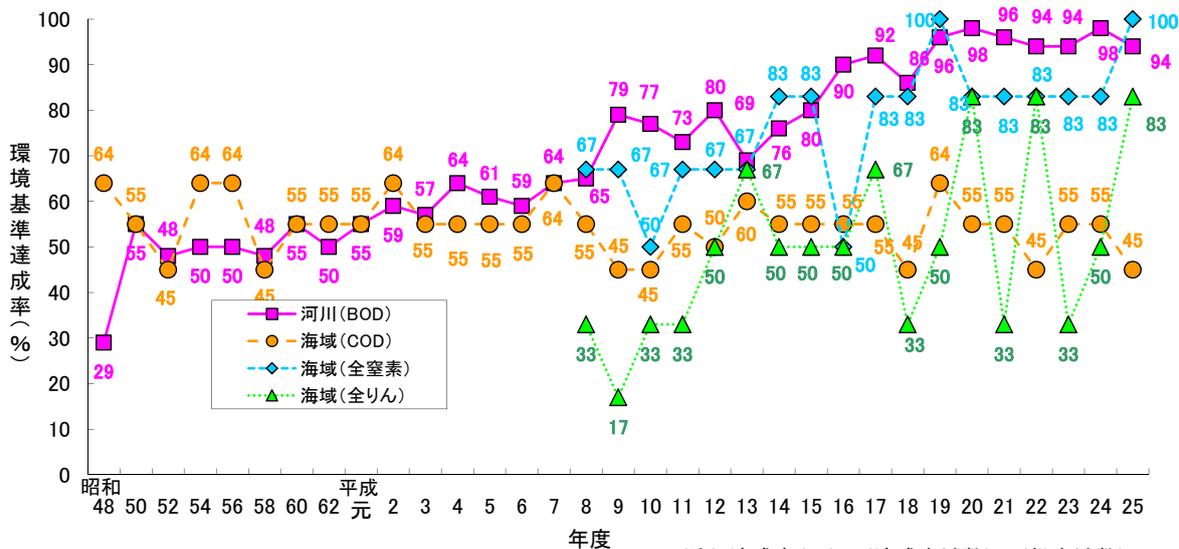
## 説明内容

- 1 愛知県における水質等の状況
- 2 これまでの取組
- 3 里海の再生
- 4 三河湾環境再生プロジェクト

2

# 1 愛知県における水質等の状況

## (1) 環境基準の達成率（県全域）



(注) 達成率(%) = (達成水域数) ÷ (総水域数) × 100

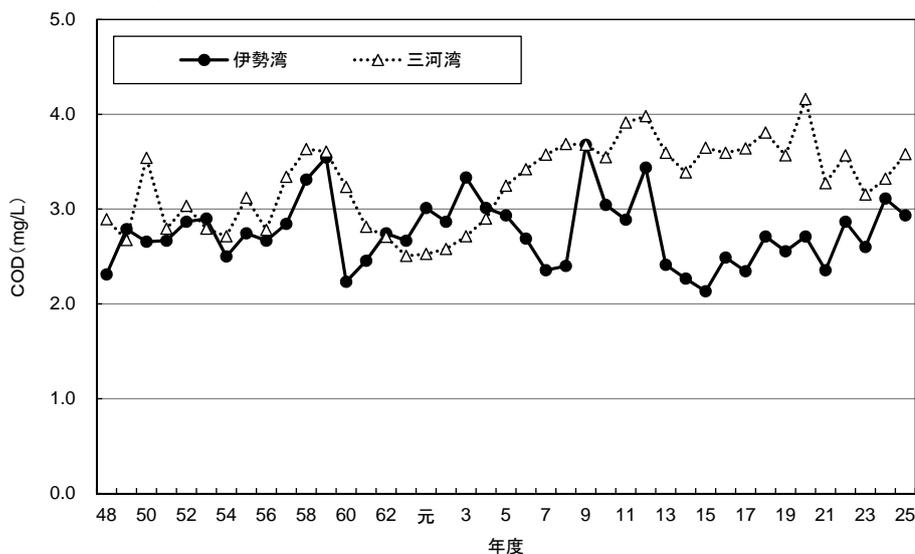
### <達成率の長期的な推移>

- ・ 河川のBODは改善傾向（ここ数年間は90%以上を維持）
- ・ 海域はいずれの項目も概ね横ばい

3

## (2) 海域における水質の推移（その1）

### ■COD(年平均値)



(注) 愛知県の各環境基準点における年間平均値を用いて算出した。

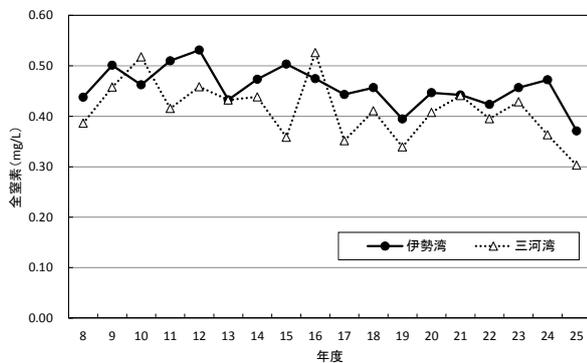
### <水質の長期的な推移>

- ・ いずれも3mg/L前後で、概ね横ばい

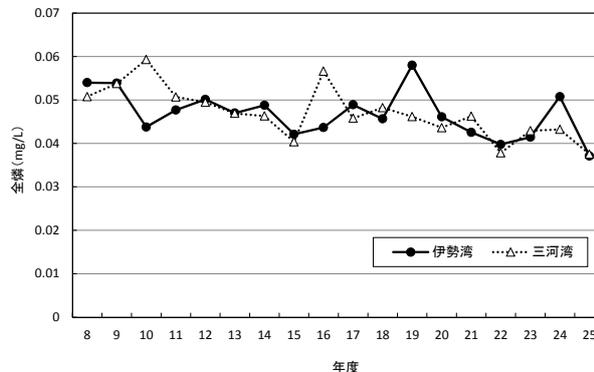
4

## (2) 海域における水質の推移 (その2)

### ■全窒素(年平均値)



### ■全りん(年平均値)



(注) 愛知県の各環境基準点における年間平均値を用いて算出した。

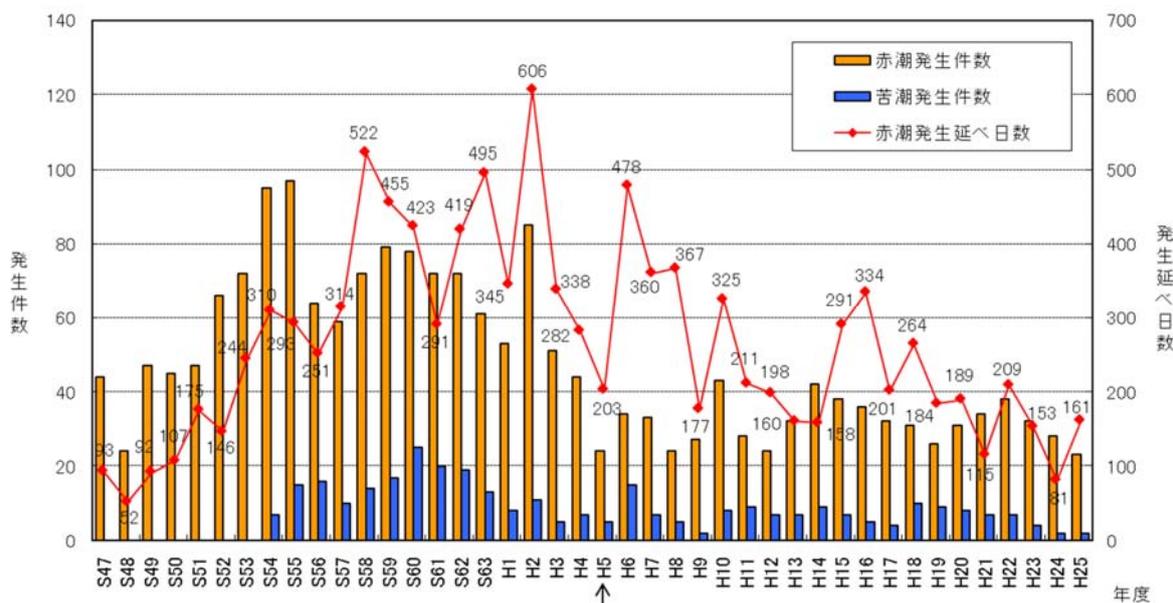
### <水質の長期的な推移>

- ・ 全窒素及び全磷のいずれもゆるやかな低減傾向

5

## (3) 赤潮・苦潮(青潮)の状況

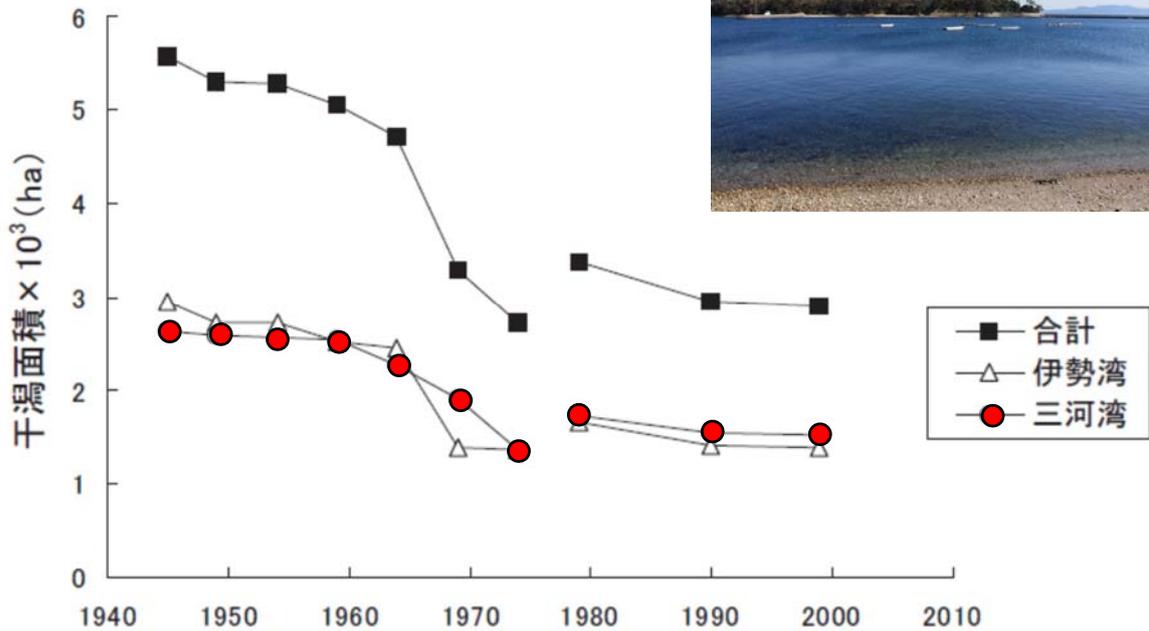
### ■伊勢湾・三河湾における赤潮・苦潮の発生件数等



(注) 赤潮として確認できたもののみをカウントしているため、定量評価には留意が必要。特に、平成5年度に赤潮の監視方法が変わっており、この時期の前後では数値を単純比較することができない。

## (4) 干潟の状況

### ■干潟面積の推移



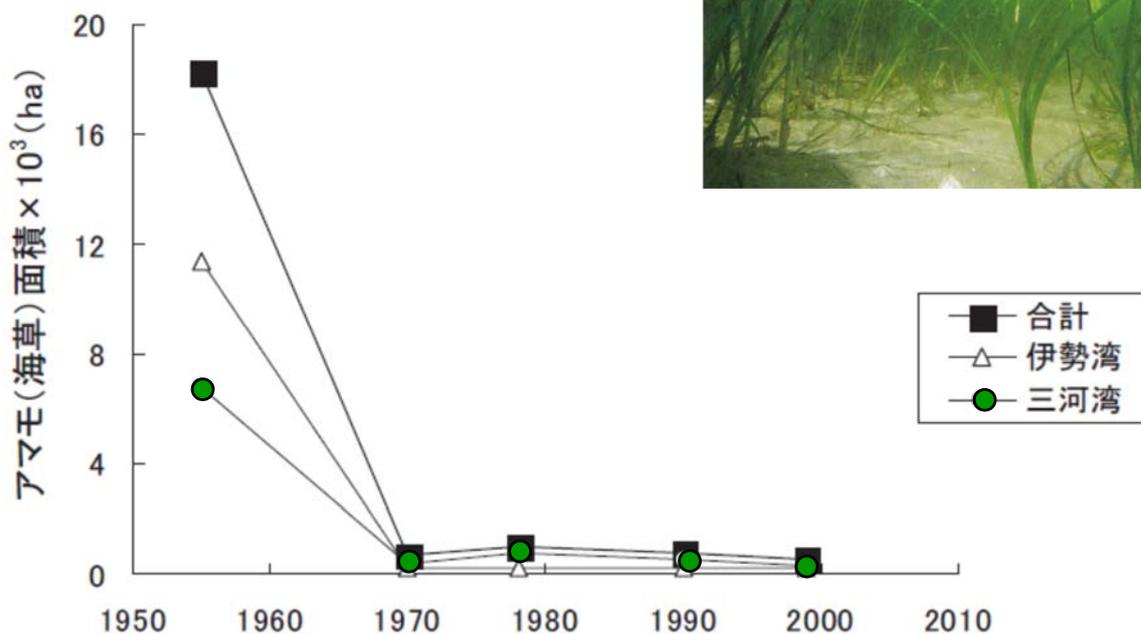
(注) 1978年より前の面積と1978年以後の面積では、調査方法が異なるため、単純に比較できない。

出典：伊勢湾再生海域推進プログラム(伊勢湾再生海域検討会)

7

## (5) 藻場(アマモ場)の状況

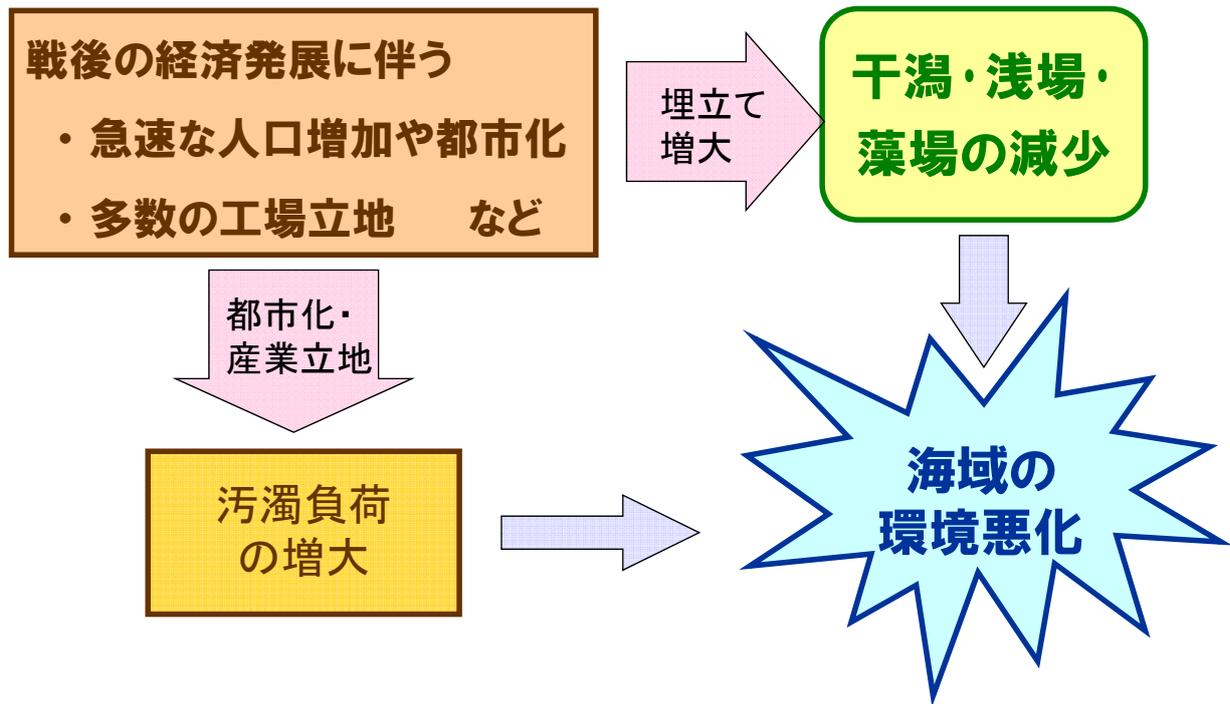
### ■藻場(アマモ場)面積の推移



出典：伊勢湾再生海域推進プログラム(伊勢湾再生海域検討会)

8

## (6) 海域の環境悪化の原因



9

## 2 これまでの取組

### (1) 取組の内容

#### ① 陸域における汚濁負荷量の削減施策

(水質総量削減計画)

- 下水道整備など生活排水対策を計画的に推進
- 事業場に対する総量規制基準による排出規制
- 環境保全型農業の推進、家畜排せつ物の適正管理
- 未規制事業場等の指導等

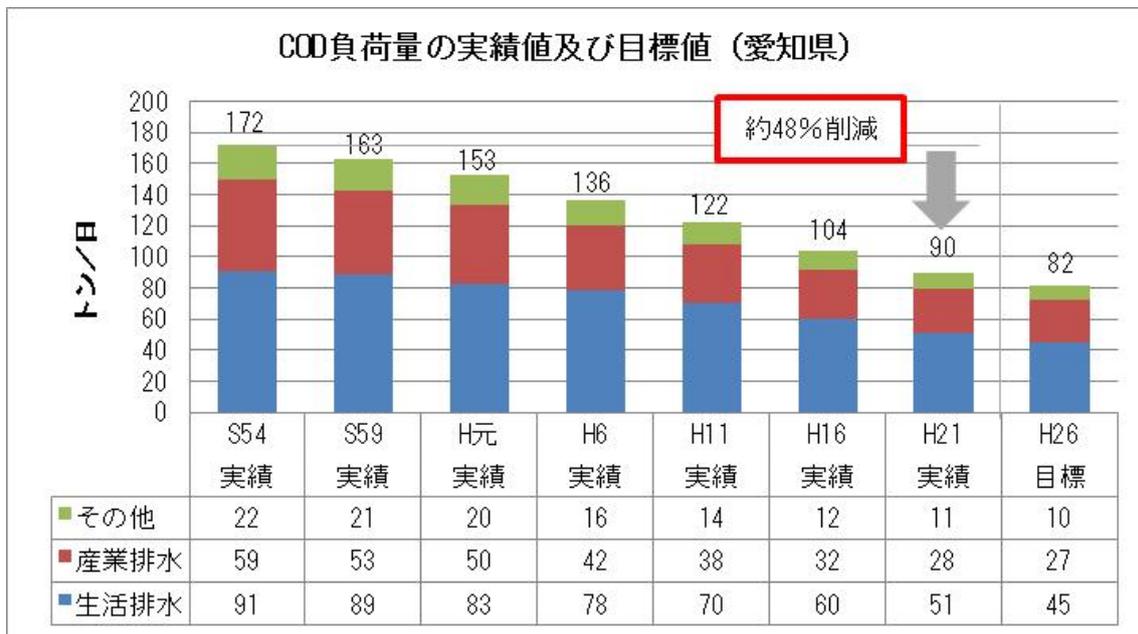
#### ② 海域における環境改善事業

- 残された干潟・浅場の保全
- 失われた干潟・浅場の再生 ⇒ シーブルー事業
- 覆砂及び浚渫、深掘跡の埋め戻し

10

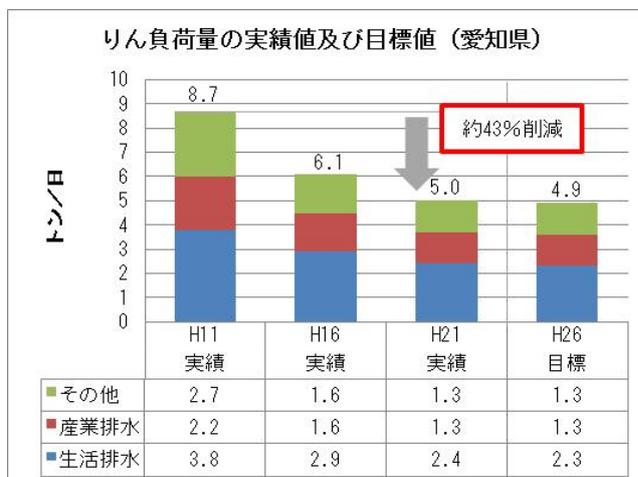
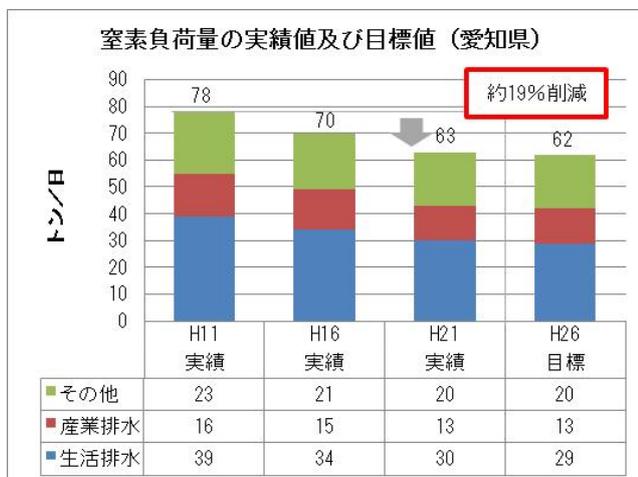
## (2) これまでの取組の実績

### ① 水質総量削減による負荷量削減（COD）



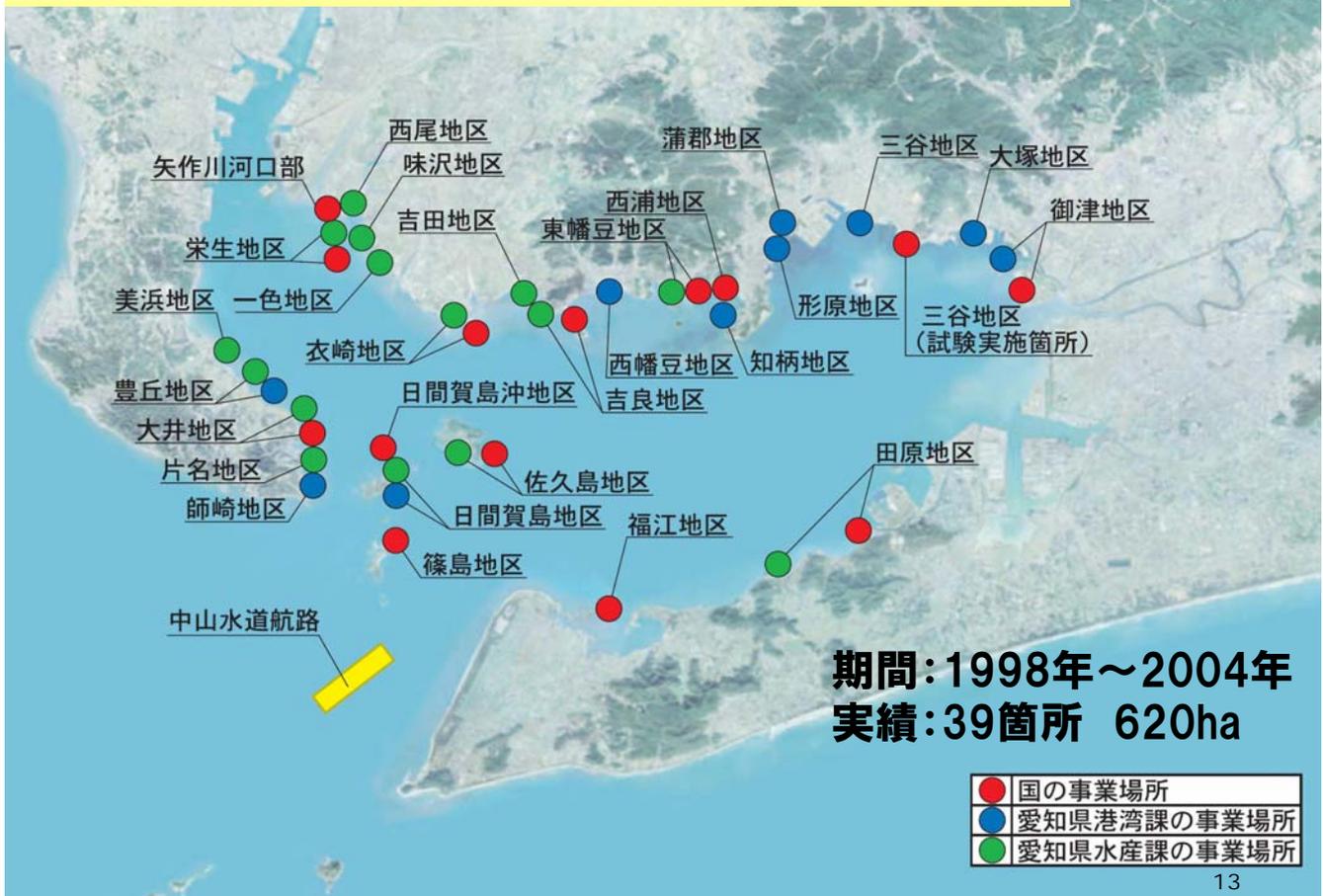
11

### ① 水質総量削減による負荷量削減（窒素、りん）



12

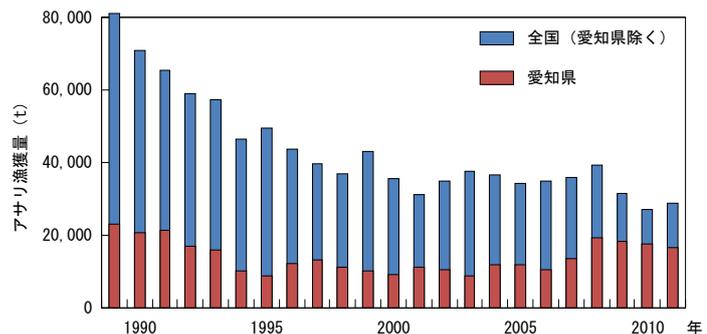
## ② シーブルー事業（干潟・浅場の造成等）



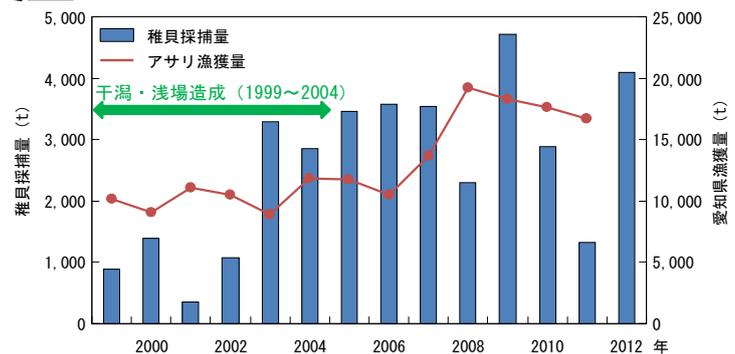
13

### ■干潟・浅場造成等による効果

○アサリ漁獲量の推移  
(1989～2011年)



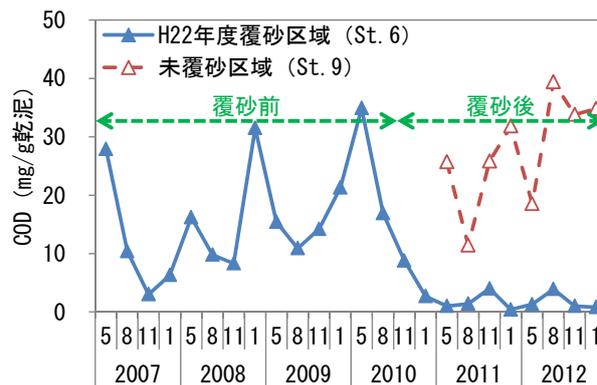
○六条潟の稚貝採捕量と  
愛知県内のアサリ漁獲量  
(1999～2012年)



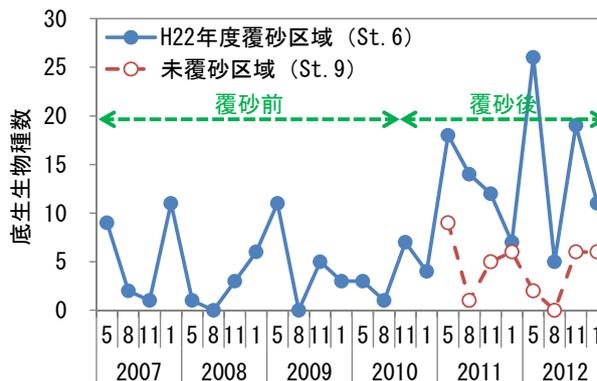
14

## ■浚渫地の埋め戻しによる効果

○御津地区における底質CODの推移  
(2007～2012年)



○御津地区における底生生物数の推移  
(2007～2012年)



出典: 愛知県三河港務所, (株)日本海洋生物研究所: 平成24年度海域環境創造工事の内調査業務委託報告書より作成

15

## 3 里海の再生

### (1) 里海

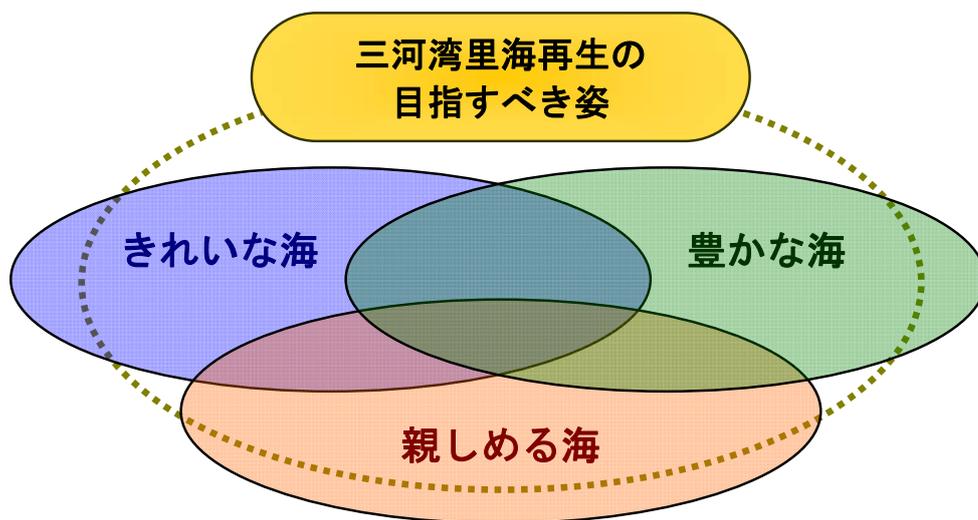
- ・人の手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域
- ・流入した栄養塩が健全に物質循環されている



16

## (2) 三河湾里海再生の目指すべき姿

- ・ 水質環境基準の達成を目標とした「**きれいな海**」
- ・ 里海という概念を踏まえ、生物多様性に富み、魚介類が豊富に生息する「**豊かな海**」
- ・ 住民に親しみを持って利用してもらえる「**親しめる海**」



17

## (3) 三河湾里海再生プログラム

(平成23年3月)

**主要施策：干潟・浅場の造成**

<造成規模と実施時期>

赤潮の発生の増加などの  
海域環境悪化の経緯

干潟・浅場造成による  
改善効果の予測結果

考慮

**目標 600ha以上** (=約1,200ha－約600ha)

※干潟・浅場造成に必要なとなる大量の良質砂の確保が大きな課題

18

## 4 三河湾環境再生プロジェクト

平成24年度から、県民、NPO、企業、業界団体、教育機関、行政などが一体となって、三河湾の再生に向けた取組の機運を高めるため、「三河湾環境再生プロジェクト ～よみがえれ！生きものの里“三河湾”～」と銘打って、様々な取組を展開している。

| H24   | H25   | H26～  |
|---|---|---|
| ・三河湾環境再生シンポジウム<br>・干潟観察会<br>・NPO等の活動支援<br>等 | ・行動計画の策定<br>・集客施設等におけるPR活動<br>・干潟観察会<br>・NPO等の活動支援<br>等 | ・三河湾大感謝祭<br>・集客施設等におけるPR活動<br>・干潟観察会<br>・NPO等の活動支援<br>等 |

19

### ■三河湾大感謝祭（H26）

- 日時・場所：平成26年8月9日（土） 10時～ 蒲郡市民会館等
- 目的：多くの人々に三河湾に関心を持ってもらうこと
- 内容：開催セレモニー、NPO等の活動発表、クルージング（雨天中止）、  
「ガマゴリうどん」の無料試食会、ロボットを通じて海を知ろう 等
- 協力団体：三河湾浄化推進協議会、GOGO三河湾協議会、蒲郡商工会議所、  
蒲郡市観光協会、蒲郡市ジュニア吹奏楽団、日本メナード化粧品(株)、  
ユニー(株)、県立三谷水産高等学校、名城大学附属高等学校（順不同）



20

## ■集客施設等におけるPR活動(H25～)

- 時期：夏頃～秋頃（4回）
- 会場：県内各地のショッピングモール、イベント会場内ブース
- 目的：多くの人々に三河湾に関心を持ってもらうこと
- 内容：パネル展示、生きもの展示・生きものタッチプール、生きもの標本展示、アサリのつかみどり 等



21

## ■干潟観察会・NPO等の活動支援(H24～)

### ◎干潟観察会

- 会場：東幡豆海岸（西尾市）  
竹島海岸（蒲郡市）
- 内容：干潟の生きもの講座  
アサリの浄化実験  
生きもの採取・調査  
干潟の役割の解説 等



### ◎NPO等の活動支援

- 団体数：10団体（平成26年度）
- 場所：県内各地
- 内容：生きもの観察会、  
海岸清掃、  
ワークショップ等



※「あいち森と緑づくり活動・学習推進事業」  
を活用してNPO等の環境活動を支援

22

# ■シンポジウム(H24)、行動計画の策定(H25)

## ◎三河湾環境再生シンポジウム ◎行動計画の策定

～琵琶湖とともに考える～

- 日時:平成24年8月18日(土)
- 会場:豊橋市公会堂
- 主催:愛知県、共催:滋賀県
- 内容:嘉田知事・大村知事の対談  
NPO等の交流 等



- 策定:学識者、NPO、漁業、流通業、観光業、レジャー業の関係者からなる委員会を設置し、三河湾環境再生プロジェクト行動計画を策定
- 目標:「多くの人々に三河湾に関心を持ってもらうこと」、「干潟・浅場・藻場の保全・造成」



23

「きれい」で、「豊か」で、「親しみやすい」  
三河湾を目指します



24